

# 長崎市の観光等の現状関係

令和元年 10月

# 目次

## 1 長崎市の情勢

- (1) 長崎市の人口の推移(見込) ……P1
- (2) 長崎市の人口及び個人市民税収の推移(見込) ……P2
- (3) 歳出及び観光費並びに民生費(社会保障費)の推移(一般会計) ……P3
- (4) 「交流の産業化」への取り組み(長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略) ……P4

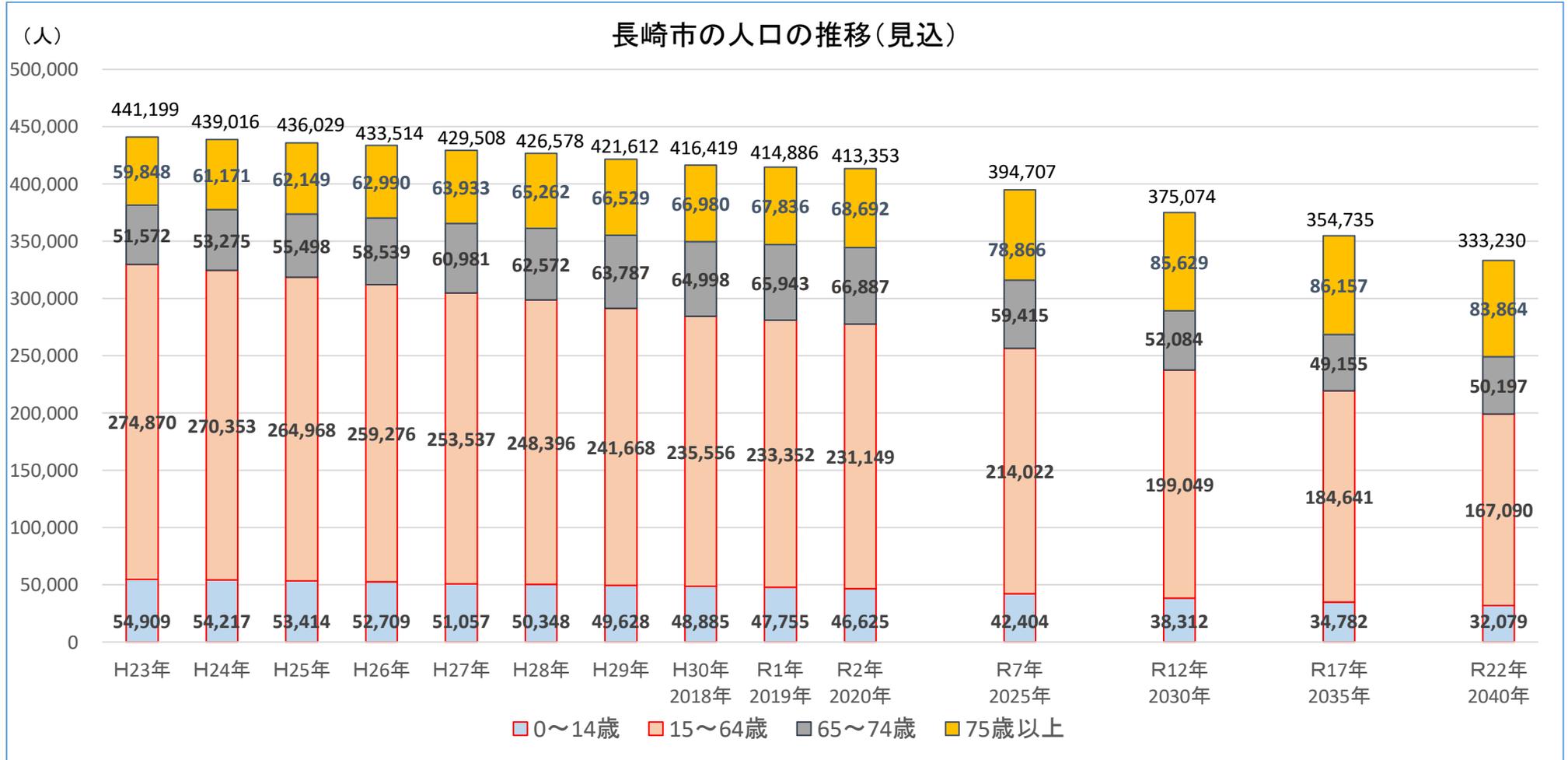
## 2 長崎市の観光の現況

- (1) 長崎市の観光客の推移 ……P5
- (2) 観光消費額等の推移 ……P6
- (3) 京都市、金沢市との比較 ……P7
- (4) 長崎市の宿泊施設の推移(各年4月1日現在) ……P8
- (5) 長崎市内の宿泊施設建設の今後の動き ……P9

# 1 長崎市の情勢

# 1-(1) 長崎市の人口の推移(見込)

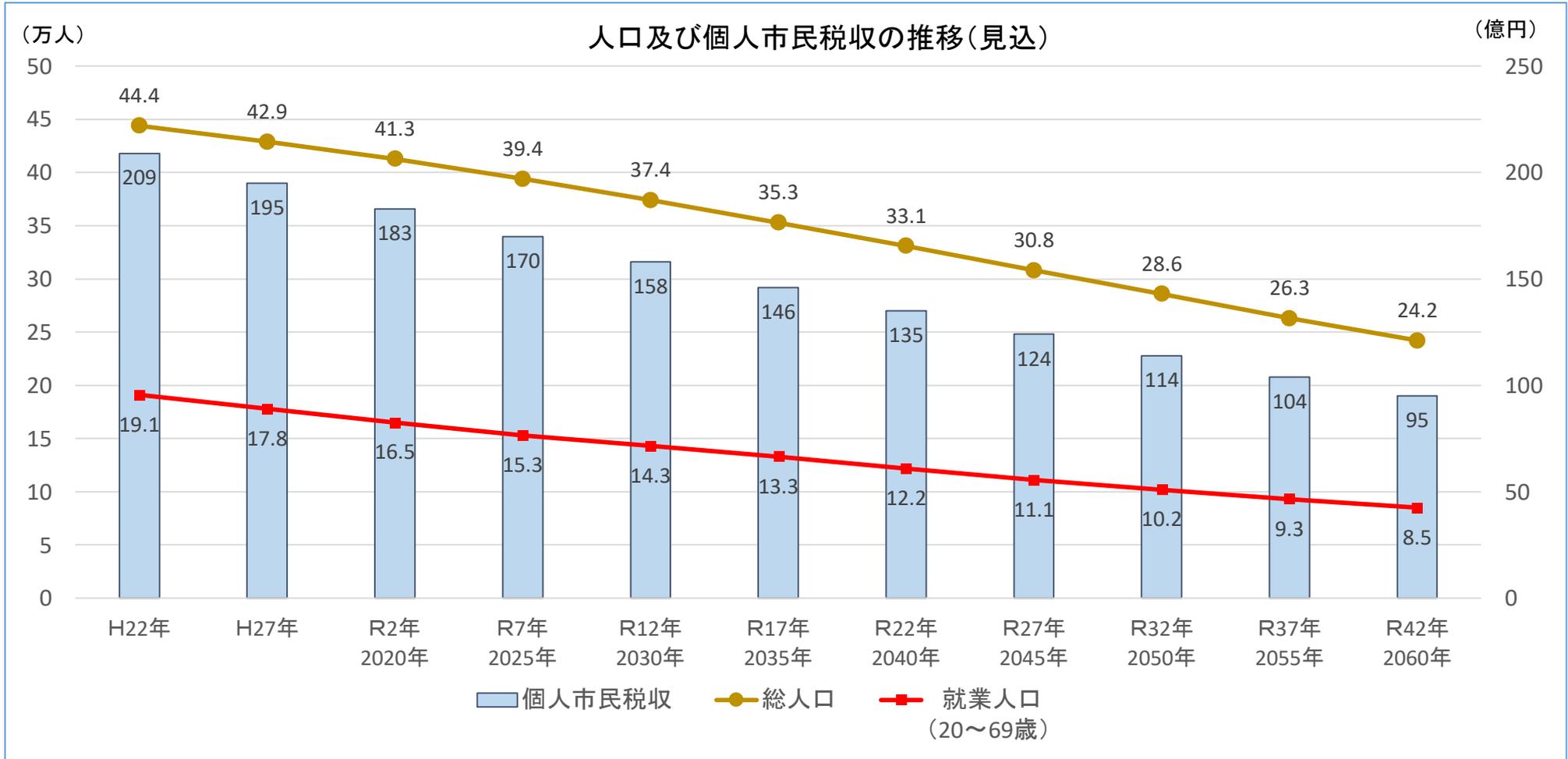
国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別推計人口」(平成30年3月)によると、長崎市の人口は、令和22年(2040年)には、33万3千人と推計されており、平成23年(2011年)の人口44万1千人と比較すると10万8千人、率にして約24.5%の減となることが予想されている。



※H23年～H30年は国勢調査に基づく10月1日現在の推計人口  
 ※R2年～R22年は人口問題研究所の推計人口(H30年3月公表)  
 ※R1年はH30年及びR2年の数字を基に、一定に変動するものとして推計

## 1-(2) 長崎市の人口及び個人市民税収の推移(見込)

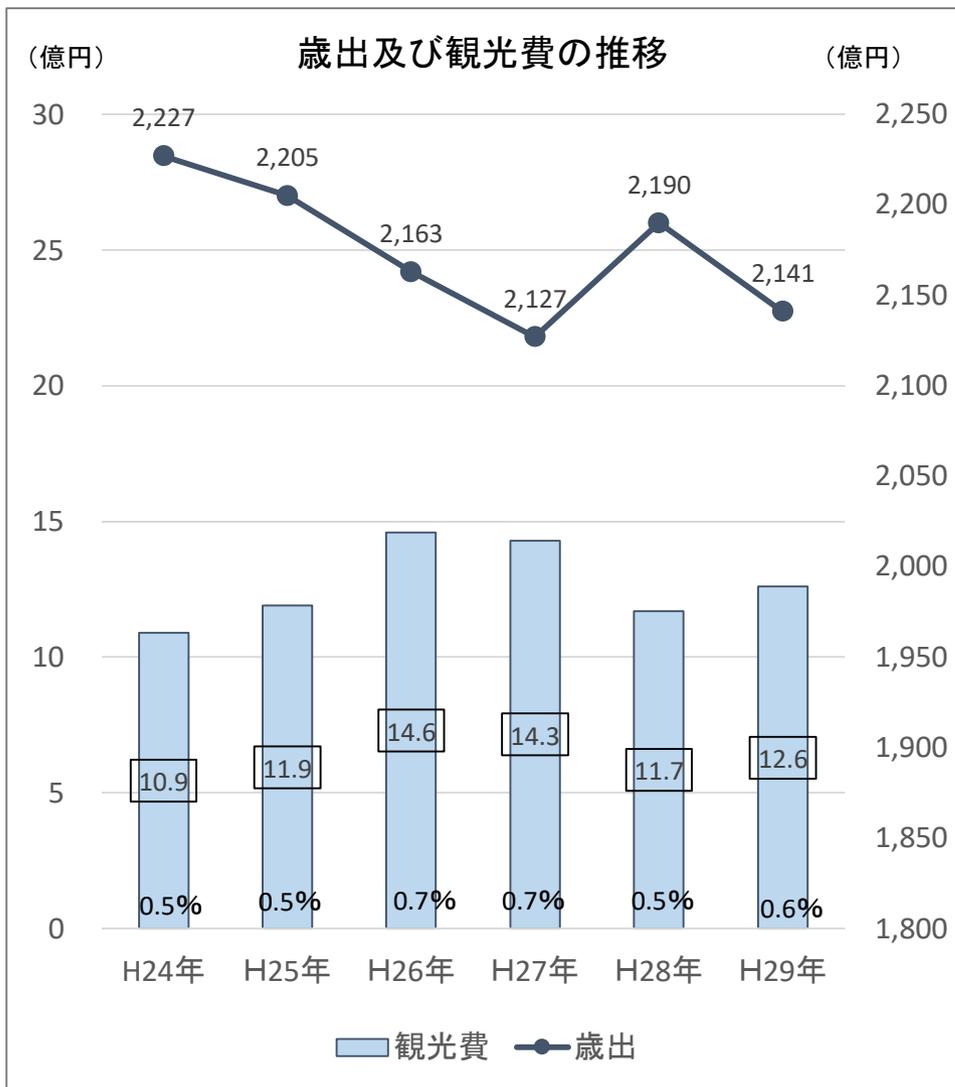
個人市民税については、今後の経済成長を見込まないことを前提条件として推計すると、平成27年(2015年)の195億円から令和22年(2040年)には135億円(約31%減)、令和42年(2060年)には95億円(約51%減)まで低下する。これは、人口減少のスピード(R22年約23%減、R42年約44%減)を上回るものとなっている。また、人口減少はその他の税目(軽自動車税、市たばこ税等)や地方交付税の減少などにも影響することが想定される。



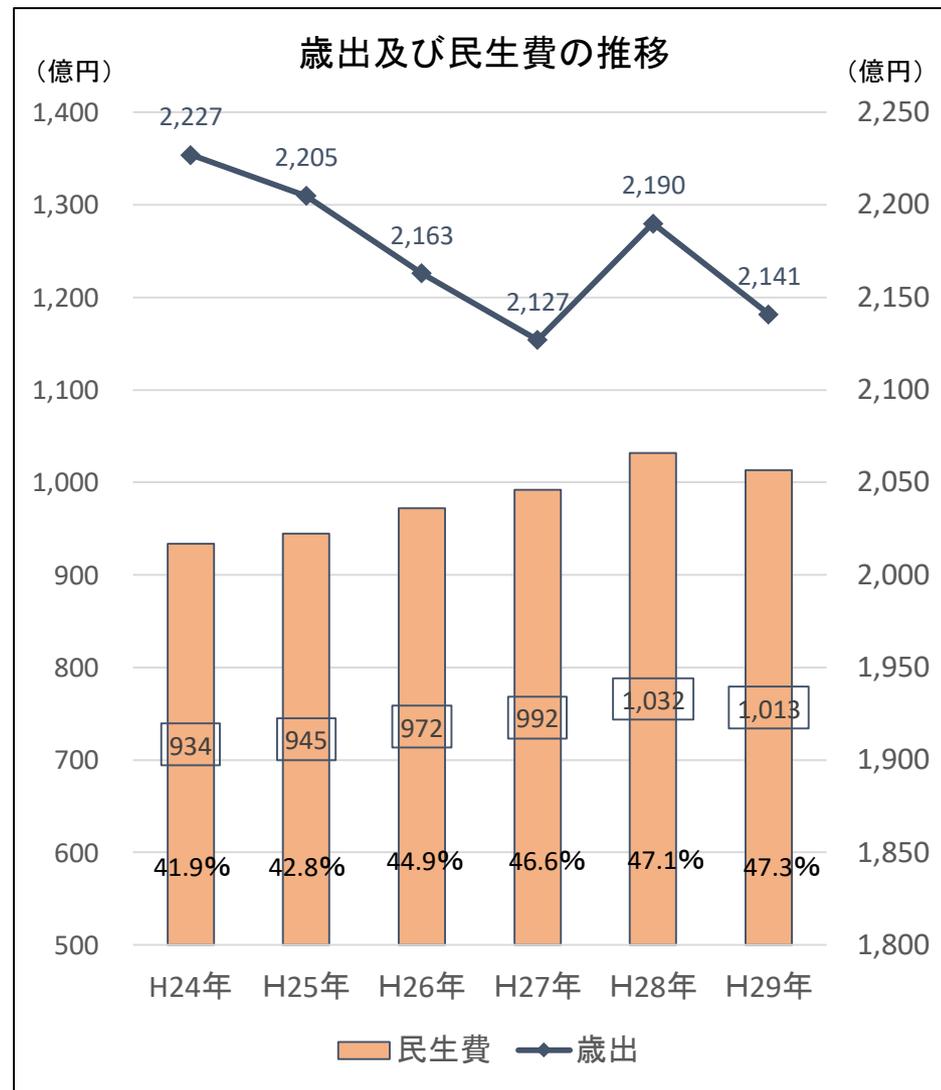
※出典:長崎市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン(平成28年3月)

# 1-(3) 歳出及び観光費並びに民生費(社会保障費)の推移(一般会計)

歳出に占める観光費の割合は、24年度以降0.5%~0.7%で推移している。



歳出に占める民生費の割合は、年々増加している。



# 1-(4) 「交流の産業化」への取り組み(長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略)

『昭和の観光都市』 から 『21世紀の交流都市』 へ

**1 観光都市 ⇒ 交流都市**

- 国内観光オンリーから  
インバウンド、MICE、スポーツ、文化などを  
加えた多くの訪問者を迎える都市になる！
- これからは観光客でなく**訪問客**と呼ぼう！

- ・インバウンド…観光立国ショーケース
- ・MICE 施設
- ・幸町（スタジアム） など

**2 成果は観光業者のもの ⇒ まち全体のもの**

- (産学官金労言+市民)が交流に参加し、  
楽しみ、貢献する都市になる！
- 交流が産業や学術・文化、市民力をアップ  
させる！
- 施設観光から **プラス** まちなか&広域観光へ！

- ・MICE 事業者ネットワーク
- ・MICE 誘致推進協議会
- ・1 団体 1 コンベンション
- ・長崎さく など

**3 舵取り役は行政 ⇒ DMO**

- 舵取り役は行政ではなく、観光協会でもなく、  
全体を見ながら民間手法を駆使して成果を  
挙げる **長崎市版 DMO**！

- ・H30.2 DMO キックオフミーティング
- ・H30.3 DMO 認定
- ・持続可能な DMO の仕組みについて協議中

**4 地方都市レベルのサービス ⇒ 国際的なレベルのサービス**

- ハイクラス**なホテルのあるまちへ！
- ・あらゆる業種で接客レベルが高い。
- ・国際会議ができる会議場がある。

- ・ヒルトンホテル、マリア園、幸町（ホテル）
- ・MICE 施設
- ・Wi-Fi、クレジット決済等のストレスフリー化 など

**5 国内では有名な観光地 ⇒ 世界に通じる個性と魅力あるまち**

- 持っている個性(地形、歴史、文化、学術、  
産業…)を磨いて、世界の人を**感動させる都市**  
になる！

- ・2つの世界遺産があるまち
- ・出島、夜景
- ・平和の発信
- ・まちなか、恐竜博物館 など

**6 都市基盤のレベルアップ**

- 交通アクセス**や**都市施設**を整備することで  
快適に過ごせる都市になる！

- ・新幹線フル規格化
- ・港湾、空港、道路などのレベルアップ
- ・まちぶらプロジェクト など

●この動きをさらに活発化する。都市の活力にする都市を目指す！

**交流の産業化！**

↓

●民間の主体的参画が不可欠かつ重要

↓

- ・民間の大型投資の動き
- ・市内企業のビジネスチャンス化の動き

が生まれている。

↓

●引き続き「協力する」ではなく、「自分事として」主体的に取り組む**“当事者”**が必要！

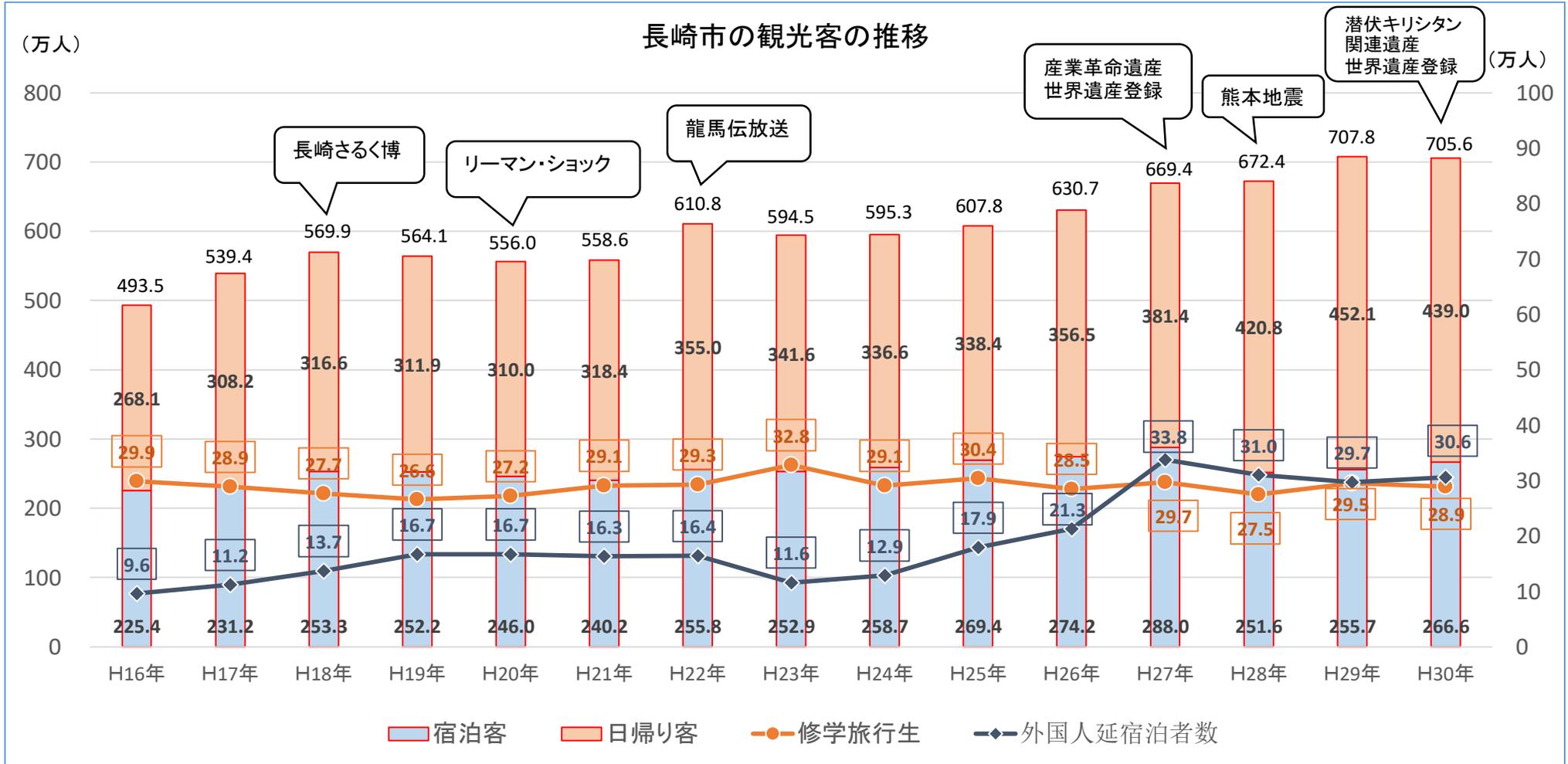
市も当事者として役割を果たす。

【平成30年8月 長崎サミット資料より】

## 2 長崎市の観光の現況

## 2-(1) 長崎市の観光客の推移

平成30年の長崎市の観光客数は、過去最高であった昨年の707万8,000人から2万2,000人減(0.3%減)の705万6,000人となった。このうち日帰り客数は439万人と前年を下回ったものの、宿泊客数は266万6,000人と前年を上回った。



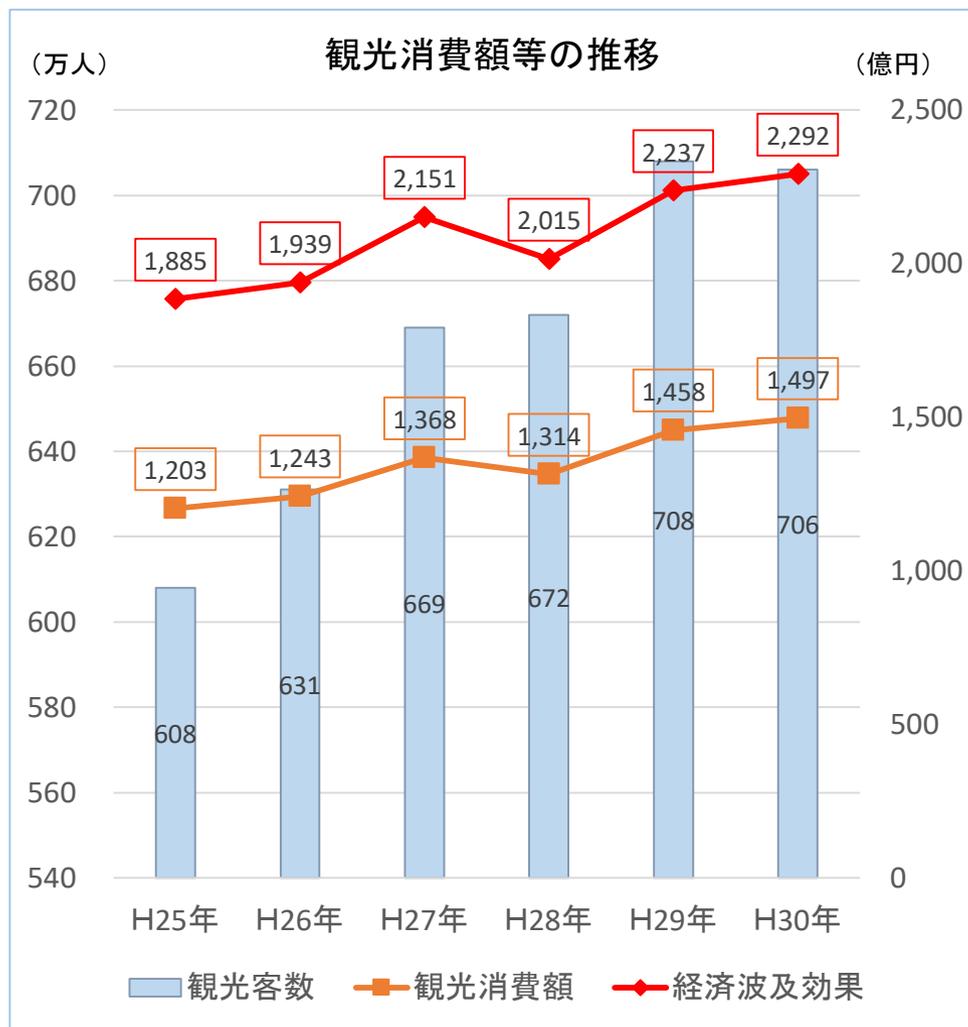
※出典：長崎市観光統計

※各年は暦年

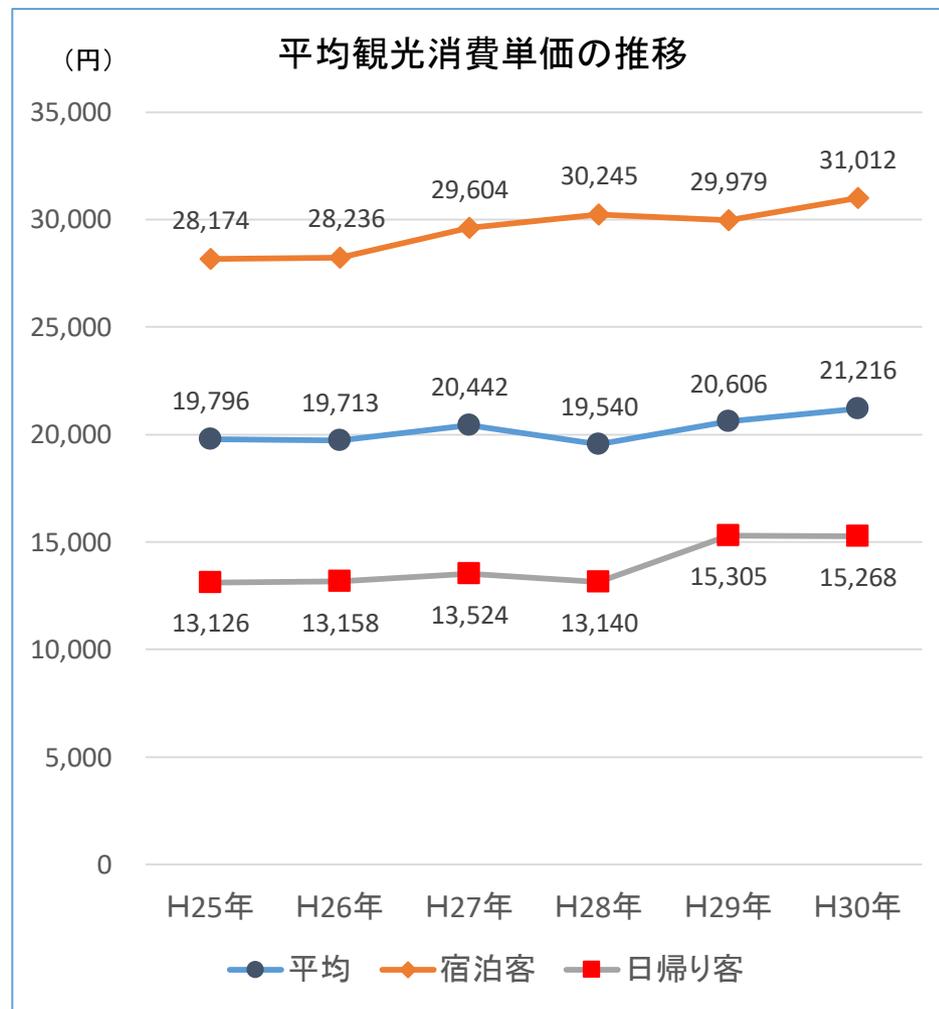
※修学旅行生、外国人宿泊者は観光客合計の内数

## 2-(2) 観光消費額等の推移

平成30年の観光消費額は、観光客数は微減したが、宿泊客の観光消費単価が前年比3.4%増加しており、過去最高となる1,497億円(前年比2.6%増)となった。また、長崎県内への波及効果についても、2,292億円(前年比2.5%増)で過去最高となった。

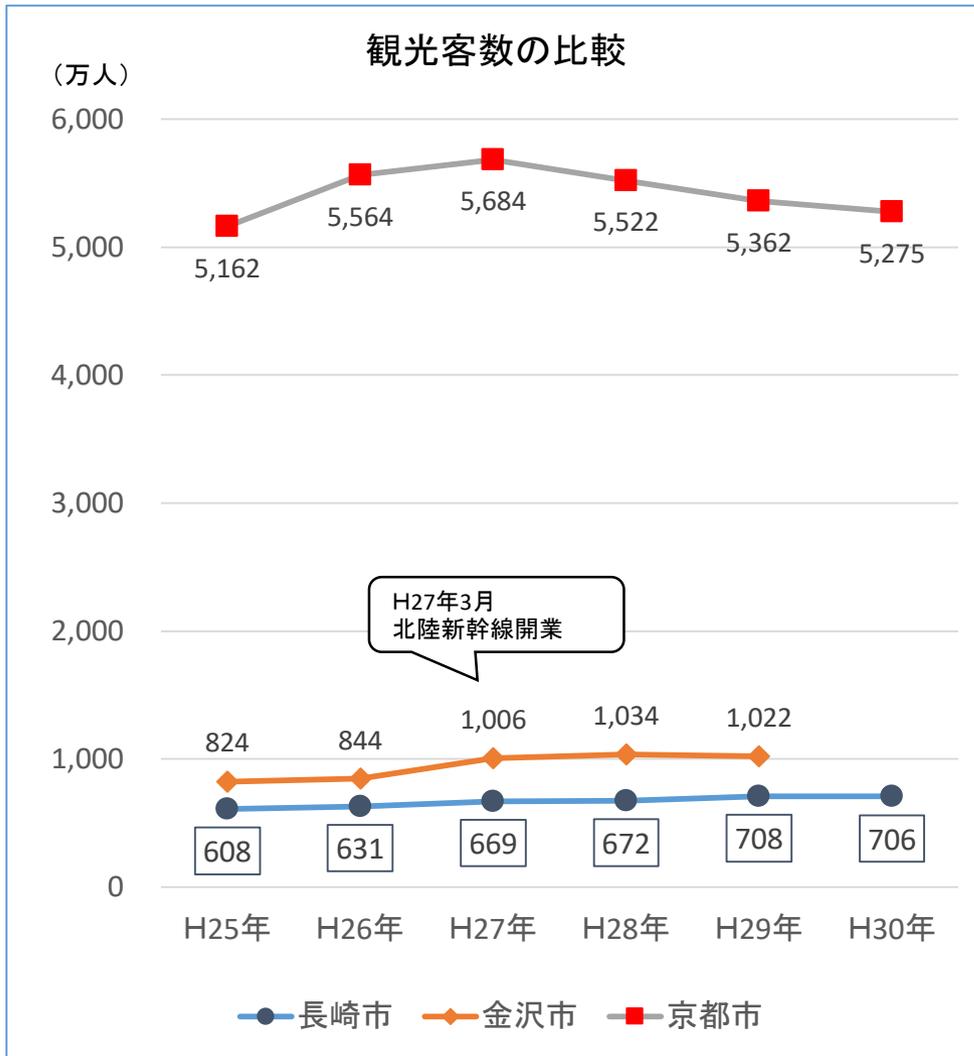


※出典:長崎市観光統計

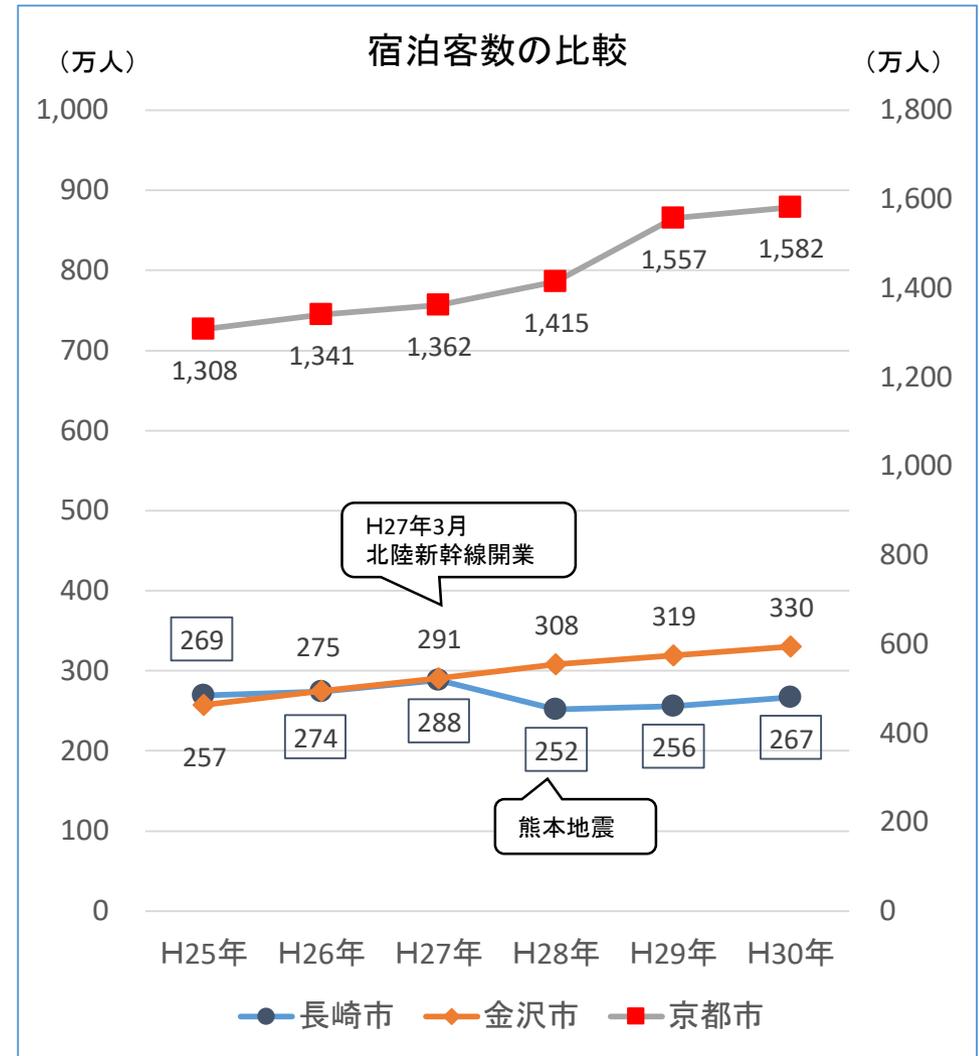


※出典:長崎市観光統計

## 2-(3) 京都市、金沢市との比較



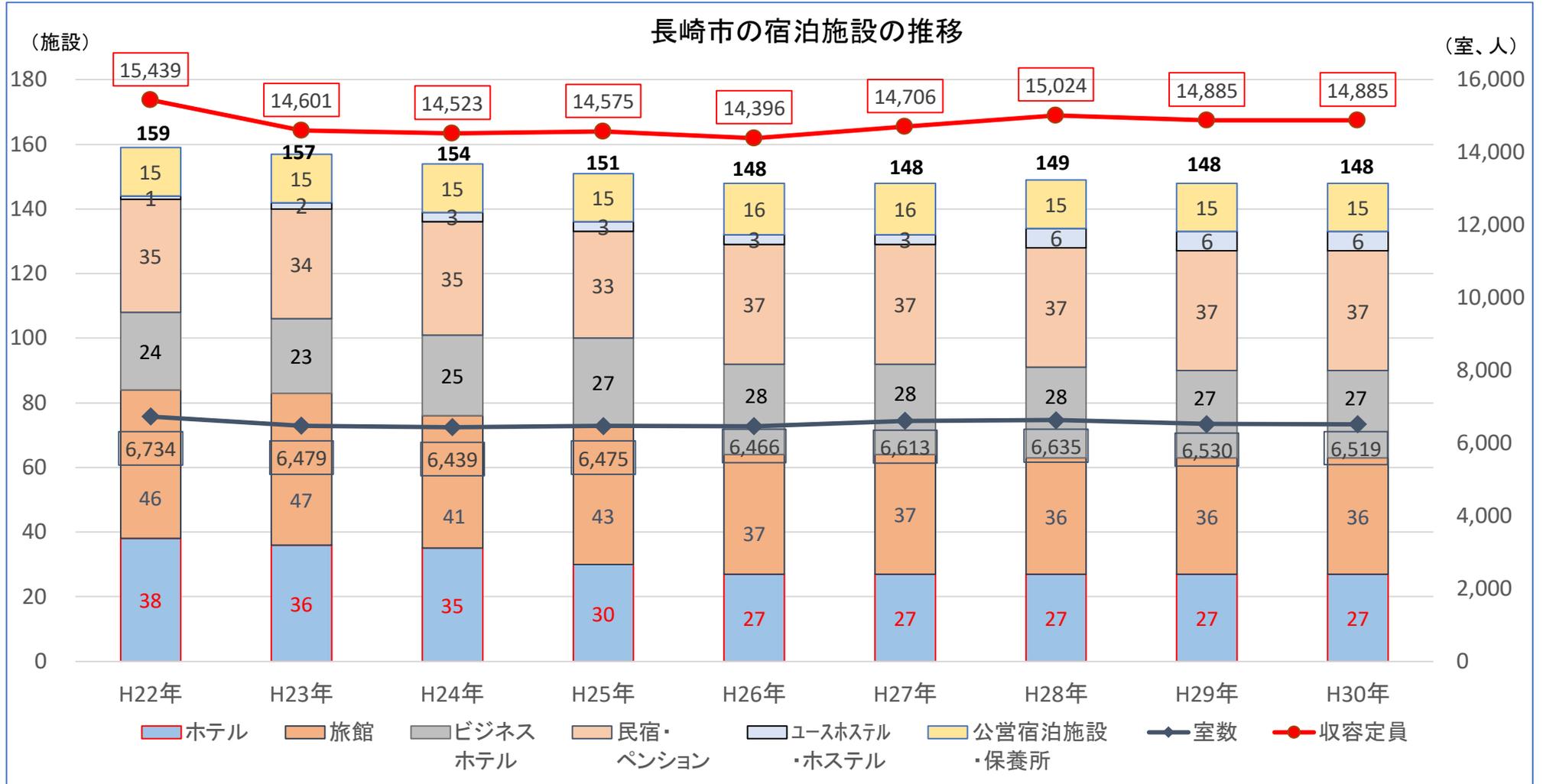
※出典：長崎市：長崎市観光統計  
 金沢市：金沢市統計書（H30年の統計書は現時点で未発表）  
 京都市：京都観光総合調査



※出典：長崎市：長崎市観光統計  
 金沢市：金沢市観光調査結果報告書  
 京都市：京都観光総合調査

## 2-(4) 長崎市の宿泊施設の推移(各年4月1日現在)

宿泊施設数、室数、収容定員とも平成22年から平成24年までは減少していたが、平成25年以降はいずれも微増微減を繰り返しており、ほぼ横ばいで推移している。



※出典:長崎市観光統計

## 2-(5) 長崎市内の宿泊施設建設の今後の動き

2019年末から2023年にかけて客室150室以上を備えたホテルの建設が5施設ほど計画されており、室数が約1,000室程度増加の見込み

名称	所在地	開業予定時期	室数(予定)	
ホテルH2トリップアンドビジネスナガサキ (築町まるみつ跡地)	築町	2019年12月	156室	
カンデオホテルズ長崎(仮称) (銅座イオン跡地)	銅座町	2020年春	207室	
ドーミーイン (大黒ゴルフ・バッティングセンター跡地)	五島町	2020年5月	219室	
ヒルトン長崎 (MICE施設「出島メッセ長崎」隣接地)	尾上町	2021年秋	200室	
サッカースタジアム隣接ホテル (三菱重工業(株)長崎造船所 幸町工場跡地)	幸町	2023年	300室	
合計			<b>1082室</b>	

※長崎ワシントンホテル(客室数300): 令和元年12月22日 営業終了予定